

コミュニケーションへの積極的な態度を育てる小学校外国語活動の実践 ～子どもの「気付き」を生かす指導をとおして～

八巻 充 憲 (鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター研究協力員)・牧原 勝 志 (鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター)

A practice of Foreign Language Activities in Elementary Schools fostering positive attitude to communication : Teaching methods to utilize children's awareness

YAMAKI Mitsunori・MAKIHARA Katsushi

キーワード：小学校外国語活動、新学習指導要領、コミュニケーションへの積極性、授業づくり、
子どもの気付き

1 はじめに

昭和61年の臨時教育審議会答申にある、「英語教育の開始時期の検討」をかわきりに、公立小学校における英語教育の研究開発が平成4年から大阪ではじまり、その後全国的に行われた。そして、平成10年に改訂された指導要領で、総合的な学習の時間の中で外国語会話等（以下、英語活動）が行われるようになるまでの、今からほぼ10年前の指導要領改訂に公立小学校における英語教育のターニングポイントがあった。つまり、これを機に、全国で国際理解の一環としての英語活動が、各地域・各学校の特色や実態を生かして、様々な形で行われるようになったのである。平成13年に、文部科学省から「小学校英語活動実践の手引き」が出され、英語活動のねらいや活動の進め方、指導内容等について示されたが、これはあくまでもガイドラインであり、その後、先行研究やこれまでの実践を生かした活動が全国各地で展開されてきた。そして、それからまた10年が過ぎ、今回の学習指導要領改訂（平成20年）により、これまでの取組の成果を生かしつつ、国として共通に指導する内容を示す必要などから、小学校5・6年生に必修として外国語活動が導入されたわけである。

そこで、本稿では新学習指導要領における外国語活動の目標・内容を考慮しながら、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するために、どのような授業を展開していけばよいかにいての一考察を述べることにする。

2 テーマ設定の理由

本年度で必修としての小学校外国語活動実施2年目となる。しかし、授業の実践については、以下のような課題が未だにあるように思える。

- 教師の「英語」に対する苦手意識
- 1単位時間の指導過程
- 単元全体をとおしての指導計画
- 各時間の効果的な活動
- 評価の仕方 等

新学習指導要領の全面実施を前に、準備期間が与えられ、その間に拠点校による実践研究や各地区の教育委員会による研修会等も実施されてきた。「小学校では英語の音声に十分慣れ親しませる」「活動をとおして体験的に行う」「コミュニケーションを図る積極性を培う」等のキーワードは殆どの先生方が理解されている一方で「授業像が見えない」といった意見も聞く。

そこで、「子どもの気付き」を生かす授業づくりを行うことで、前述した課題の解決につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

3 小学校外国語活動をどうとらえるか

ここで小学校外国語活動の目標を提示してみよう。

「外国語を通じて ア言語や文化について体験的に理解を深め、イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、ウ外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」

※波線、下線等及びア、イ、ウは筆者による。

この目標は次のように読み取ることができる。

ア 言語や文化について体験的に

遊び感覚豊かな活動等を通して、異文化への共感的な態度を育てる。

イ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

「正しく使わなくては」ではなく「間違ってもいいから使ってみよう、話してみよう」とする態度を育てる。

ウ 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら

活動を通して、英語独特の発音・リズム・アクセント等に慣れ親しませる。(音声中心で進める)

文頭の「外国語を通じて・・・」とあることから、小学校では外国語の習得が主目標ではないことがうかがえる。極端な言い方をすれば、小学校外国語活動は英語の授業ではなく、コミュニケーションの授業としてとらえられる。(もちろん、英語をとおしてのコミュニケーションであるが)

また、一方で小学校外国語活動で求めるものは「コミュニケーション能力の素地」であり、それはやがて「コミュニケーション能力の基礎」「コミュニケーション能力」へと発展していくものと考えれば、目標において小・中・高の英語教育はつながる。

小学校外国語活動は英語教育の一端を担うことには変わりない。しかし、中学校から始まる英語科の前倒しではない。ここに、曖昧さが感じられる。

そこで、授業づくりをどのような観点から構想していけばよいのかについて述べる。

4 子どもの気付きとは

小学校外国語活動では「コミュニケーション能力の素地」を養うことが目的であり、スキル重視ではないことが大前提といえる。つまり、外国語(英語)をどれだけ聞こう・話そう、伝えよう・理解しようとする態度の育成が求められる。これがコミュニケーションへの積極

性だととらえる。

この積極性を養うために、「子どもの気付き」を生かすことが必要である。

以前の(筆者が受けた)英語の授業では以下のような授業が多かったように思う。

What is this?とリンゴを見せて問われ、It's an apple. と答えるやりとり。こうしたパターンプラクティスは、スキルを身に付けるために必要な学習法であると思う。

しかし、小学校では(中学校以上でも同じかもしれないが)特に「なんだろう」「前に聞いたことがあるなあ」等の意識をもたせることがスタートだと考える。それが子どもの気付きだととらえる。

子どもの気付きを次の2に分けて示す。

(1) 内容の気付き

ア 場面の特徴

あいさつの表現を使った場面において、相手の顔を見る、はっきりとした声で言う、笑顔で行う等が大事なことだと気付く。単に英語が言えたことのみを求めない。

イ 表現の特徴

買い物や道案内では、日本語と同様の内容が必要であることに気付く。言葉は違っても、コミュニケーションの内容は同じであることを意識することで、「外国語だから」といった苦手意識を小さくすることにもつながる。

ウ 音の特徴

例えば外来語と呼ばれるものと英語では発音やアクセントに違いがある。そこに気付くことで英語の持つ音の特徴に注意する態度が育つと考える。また、文においても強弱があったり、文末が上がったりするなど日本語との違いにも気付くことが期待できる。

(2) 方法の気付き

ア コミュニケーション・ストラテジー

相手の質問は分かっているがどう答えていいか分からない場合、何とかして伝えようとする意欲を大事にする。その時に、

ジェスチャーや絵等の非言語で伝えたり、知っている単語を使って伝えたりする方法を使うことが大切であることに気付かせる。

イ 語順の柔軟性

「赤いペンを3本ください。」と伝えるとき、その表現を子どもたちに考えさせてみる。「Red pen, three, please.」「Three pens, red, please.」等の表現を考え出す。使える表現を使って伝えようとする意欲を大事にしたい。この場合、正しい語順については、子どもの意欲を認めた上で正しい言い方を返すようにする。

ウ 表現の多様性

好きなものを伝える授業において、Do you like ~?と、What ~ do you like?の2パターンでビンゴゲーム等の尋ねる活動を行う。Do you like ~?だとYes, I do. No, I don't.のどちらかしか答えられないのでビンゴがうまくできない。一方、What ~ do you like?だと好きに答えることができ、ビンゴが作りやすい。これも大切なこと子どもの気付きである。

5 気付きを生かす授業づくり

(1) 場面の特徴への気付き

ジェスチャーのみであいさつの活動を行う。当然、言葉を使えないので握手やおじぎ、中にはハグするなどの大げさなジェスチャーを示す子どもたちも出てくる。このあと、どのようなことに注意したかを子どもたちに尋ねる。ここのねらいは、ジェスチャーの効果も認めつつ、場面に必要な要素は日本語も英語も同じであることに気付かせることにある。

言葉を使う際に、そのときの意識も考えさせたい。

(2) 表現の特徴への気付き

買い物の場面をモデルで示す。あえて未習である表現も使う。ここで、「どんな内容の言葉を使っているのか」を想像させる。すると、thank you. やhello等の聞いたことのある

表現から「～をくださいと言っている。」「またどうぞと言っているんじゃない。」等のつぶやきが聞こえてくる。英語でも日本語でも同じような表現を使っていることに気付かせたい。これは道案内や食事等の場面でも同じことが言える。

こうした気付きを持たせることで、英語が全く分からなくても、その場面や仕草から話す内容を推測しようとする姿勢が育てられるのではないかと考える。

(3) 音の特徴への気付き

バナナがよく使われるが、外来語と日本語との違いはアクセントによるものが多い。このことから、カタカナ表記では英語にならないことに気付かせたい。また、文の言い方においても、日本語のように平坦な言い方ではなく、強弱があることにも気付かせることが大切だと考える。日本語との基本的な違いを意識させることも小学校外国語活動では期待できる。

(4) コミュニケーション・ストラテジー

コミュニケーション・ストラテジーにはジェスチャー等、非言語的なものも含まれる。小学校段階では会話に十分な語彙量は求められない。そのため、適切な応答ができないときでも、コミュニケーションを続けようとする態度はこの時期から培いたい。

例えば、3ヒントクイズでは、色や形などの言葉を使って、言い換えて伝えることをねらいとしている。こうした経験を重ねていくことで、コミュニケーションを行う際の大切な態度は育てられるのではないかと考える。

(5) 表現の多様性への気付き

好きなものをお互いに伝え合いながら、ビンゴを作る活動を行う。この時に、「Do you like ~?」で行うパターンと「What ~do you like ?」で行うパターンの2通りで取り組む。

まず「Do you like ~?」の場合、「Yes, I do.」と答えてくれたときのみチェックすることに。「Yes, I do.」と答がもらえるまで何人にも尋ねなければならず、時間がか

かる。

一方、「What~do you like?」では、あらかじめ自分の好きなものを決めておき、I like ~.と応じる。こちらの方がチェックも早く、ビンゴがしやすい。

子どもたちの感想も「Do you like ~?」よりも「What ~ do you like?」の方が自由と言えると感じが出た。尋ねる表現が違くと、その応答にも違いがあることに気付くのである。

6 授業実践

5で述べたような授業づくりの実践について示す。単元はHi friends 1のL5 What do you like?で行った。

(1) 実際



本単元の全体計画を4時間で構想した。単元の流れとしては聞く主体から話す主体へと考えている。その中で、表現への気付きなどを考えてみた。

【活動計画 (全4時間)】

	学 習 内 容
	<p>いろいろな形の言い方を知ろう。</p> <p>1 三角形・四角形・五角形・ひし形・円・星形・ハート型を使ったイラスト(色無し)のシートを使って、塗り絵をする。</p> <p>2 ペイントゲーム (指示した形を好きな色で塗る。"Please paint triangle")</p> <p>※「形の言い方が分からない」という意見を引き出し、形の言い方を知る動機付けを図る。</p> <p>3 形チャンツ+color ("triangle・・red triangle")</p> <p>4 できあがったシートを友達に紹介する (同じ形を同じ色で塗っていたら1ポイント)</p>
1	
	<p>ほしいものを教えよう。</p> <p>1 モデルスキット (ほしいTシャツをうまく伝えられない。プリントしてある模様を言えば伝わることを子どもたちから引き出す。→ 本時のねらいにせまる動機付け)</p> <p>2 "Hi, friends 1"のP18・19のイラストを使って、どのTシャツが欲しいか伝えるにはどうすればいいかペアで考える。(色や形に気付き、第1時で使った色・形の言い方を練習する。)</p> <p>3 買い物ゲーム1 (①~⑩のカードを使って、買い物をする。ここでは指して教えることは禁止。)</p> <p>4 うまくいったこと、難しかったことを発表し、次時への課題をもたせる。(数の組み合わせ方等)</p>
2	

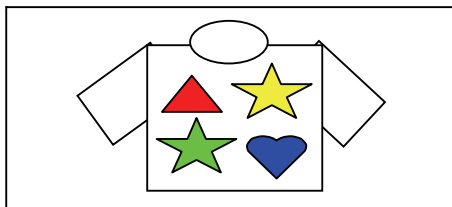
	<p>数・色・形を使って友だちに伝えよう。</p> <p>1 前回の課題を確認する。(数・色・形の要素に気付く。)</p> <p>2 P20Listen3を使って、数・色・形を聞き取る。</p> <p>3 いろいろな模様を付けたTシャツのカードを使ってカルタ・ビンゴ等をする。</p> <p>4 自分の好きなTシャツを友達に伝え、カードに描いてもらう。</p>
3 (本時)	
	<p>買い物しよう。</p> <p>1 自分の好きなT-shirtを10枚程度カードにする。(前時終了後に取り組ませる。)</p> <p>2 買い物ゲーム1 (クラスを店員とお客に分ける。時間で交代)</p> <p>"What do you like ?"で尋ね、"I like blue T-shirt. Red circle. Two."のように伝える。</p> <p>3 買い物ゲーム2</p> <p>グループに分け、お使いメモを渡す。(形・色・数を記したもの)</p>
4	

(2) 本時案 (活動部分のみ)

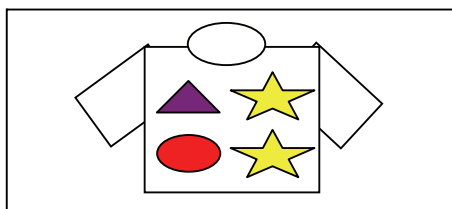
(分) 過程	活 動 内 容
(5)	<p>1 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な英語のあいさつを行う。
(10)	<p>2 チャレンジ 1</p> <ul style="list-style-type: none"> "I like ~." "Three circle, please."等を使って自分の欲しいTシャツを伝える。 <p>3 チャレンジ2</p> <ul style="list-style-type: none"> いくつかのTシャツを示し、その中で一つ選んだTシャツを3ヒントクイズ形式で当てる。
(20)	<p>4 自分の好きなTシャツを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな模様のTシャツを伝える表現を練習する。 買い物ゲーム形式で、自分の欲しいTシャツカードを伝えて、手に入れる。伝わるまでは渡さないようにする。  
(5)	<p>5 本時をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> できたこと、難しかったことなどを発表する。 <p>6 あいさつ</p>

(3) 考察

チャレンジ1の好きなTシャツを買おうという活動で、円、三角形、星、ハートなどの形を扱った。お好みのTシャツを選ぶ際に、そのTシャツの模様を伝えることが必要となってくる。例えば、下のようなTシャツカードを選ぶ場合、「red triangle, yellow star, green star, blue heart, please.」と伝える。



ここでは、一つ一つの形と色がばらばらなので、上述のような伝え方で伝わる。そこで、以下のようなTシャツカードも使ってみる。



すると、「あれ、黄色の星が2つある。」と、これまでの表現との違いに気付く。「yellow star, 2」「2 star, yellow」「2 yellow star」等の表現が出てくる。ここでは、どれでも伝わることを認めていく。語順は文法につながるの、大切なことではあるが、まずは伝えようとする態度を育てることが第一と考える。

本時では買い物ゲーム形式で、こうしたカードのやりとりを行った。活動の中で、言い方に戸惑う児童もいたが、「Two.」「Red.」等の単語を駆使して伝える姿も見られた。表現への気づきを持ってくれたのではないかと思う。

7 授業の評価について

今回の授業づくりにおいて、授業研究支援シート（別紙参照）を活用した。この支援シ

トは、授業づくりをする際に指導の目標や留意点をあらかじめ授業者が記述する。授業後に、記述した項目にそって振り返る。授業研究では、このシートを使うことで協議の柱が明確になった。また、授業計画の段階での授業者の意図が見えるので、その点についての質疑も行いやすかった。

このように、授業者自身が自分の授業を客観的に振り返る点において、支援シートは効果的な資料であると思う。また、評価についても児童の評価と合わせて、教師側の自己評価も充実させ、指導法改善に努める必要がある。

8 成果と課題

(1) 成果

① 内容への気付きについて

例えば、導入で「はっきり伝えるためには言葉が必要」という課題をもたせる。

この課題を解決するために、あえて非言語活動を行い、言葉の必要性に気付かせる。

このように、小学校外国語活動はスキルベースの授業はそぐわないので、小学校においては英語を使ってコミュニケーションを図る活動をとoshi、言葉のもつよさ、面白さ等に気付かせていくことが大切であるということの検証ができた。

② 方法への気付きについて

買い物活動で「Do you have shirt?」を基本にした後、いくつかの色から選ぶ場面をモデルで示す。そこで、「Do you have red shirt?」という表現が出てきた。自分の意思をより正確に伝える方法に気付くことで、表現への意欲がさらに高まることが確認できた。

また、相手から「2 apples, please.」と尋ねられた際に、1つしか持っていない場合「Only 1.」と言って相手に伝えようとする姿が見られた。学習の結果として使えるようになるという授業観だけではなく、伝える方法を自ら考えさせ気付かせる授業も、コミュニケーションへの積極性を培う上で効果的であることがわかった。

(2) 課題

① 新教材の研究

新教材「Hi friends」は付属のDVD等、授業を進める上で効果的な教材である。

今後はこの教材を生かし、ゲームや制作活動等の遊び感覚豊かな活動を充実させていくことが必要だと考える。時にゲームのみに執着させてしまい、活動の目的であるコミュニケーション能力の素地や異文化理解が薄くなってしまふことも予想される。

単独ではなく、近隣の小学校間で一単位時間の学習過程や一単元及び年間の指導計画等を共有していくことが、今後の大きな課題であると思われる。

② 教職員の支援および研修

小学校外国語活動の意義は理解しても「じゃあ、どのように進めるの。」「高学年だけの問題でしょう。」等の素朴な疑問に対応し、支援できる環境の整備が必要である。

地域の外国語活動実施状況等の実態に即した各種研修会の充実や、教職員間のネットワークづくりを通して、教師自ら「教材を研究しよう。」「授業を改善しよう。」といった意欲を高めていく必要がある。

それだけでなく、言葉にはそれを遣う人の内面・心情も大きく反映されるものである。日本語であれ、外国語であれ、言葉を遣うときにそうした面にも子どもに意識をもたせたり、気付かせたりする指導を今後も充実させていきたいと思う。

【参考文献】

- 文部科学省「小学校外国語活動指導要領解説」
影浦 攻 「小学校英語教育の手引き」
吉田研作 「新しい英語教育へのチャレンジ」
薩摩川内市立平佐西小学校「研究紀要平成17年・平成18年」

9 おわりに

以前、I can～を使った授業を行った。スポーツや楽器ができますと伝える内容で、カードやビンゴなどの活動も楽しくできた。

しかし、それだけでコミュニケーション能力の素地が養われたと言えるのだろうか。子どもたちはI can play～.の規則に従って言っているだけではないのか。という思いが強かった。

そこで、パラリンピックに出場した選手の写真を子どもたちに見せた。手足に障害のある選手を見せたとき、「この人は右手がない。」等に子どもたちは気付き、ハンディを背負っても活躍している人たちの姿に「I can～.」の持つ意味を、深く考えさせることができた。

言葉には機能があり、場面に応じて機能を正しく生かすことが必要である。

【資料】

授業準備日	授業場所	学校・学年・授業者	観察ポイント
H24年 7月 18日(水)	5年教室	5年・八巻 充童	お気に入りのTシャツを探そう

STEP2. 授業者の授業計画力・授業展開力 をチェック!
 ① 授業準備日・授業場所・授業者・学年・授業者の項目を各自で記入し、事前協議するものには必ずチェックしよう。
 ② 授業準備日・授業場所・授業者の項目を各自で記入し、事前協議するものには必ずチェックしよう。
 ③ ○や△をつけたのは、授業中の、そのようだったかどうかですか？ 具体的な授業の事実を書きましょう。(例) 教師や子どもの言動

STEP3. 授業者の外国語活動指導観と 授業計画力・授業展開力の関係 をチェック!
 ④ 右の項目①～⑧のうちの、外国語活動指導観の項目①～⑧と関係がある項目を線で結びましょう。

②	③	④	⑤
授業内容	教材・教具・資料	授業内容	授業内容
9 美画に即しているか?	9 美画に即しているか?	9 美画に即しているか?	9 美画に即しているか?
10 単元や本単元を達成できるか?	10 単元や本単元を達成できるか?	10 単元や本単元を達成できるか?	10 単元や本単元を達成できるか?
11 コミュニケーション・文化理解・場の場取定は適切か?	11 コミュニケーション・文化理解・場の場取定は適切か?	11 コミュニケーション・文化理解・場の場取定は適切か?	11 コミュニケーション・文化理解・場の場取定は適切か?
12 教師の働きかけ	12 教師の働きかけ	12 教師の働きかけ	12 教師の働きかけ
13 子どもの活動	13 子どもの活動	13 子どもの活動	13 子どもの活動
14 学習環境	14 学習環境	14 学習環境	14 学習環境
15 学習評価	15 学習評価	15 学習評価	15 学習評価
16 授業計画の実行	16 授業計画の実行	16 授業計画の実行	16 授業計画の実行

STEP4. 授業者の外国語活動指導観と 授業計画力・授業展開力の関係 をチェック!
 ⑥ 授業の観測や改善案について、授業者の外国語活動指導観と関連づけて討論しておきましょう。新たに気が付いたことがあれば書き加えましょう。

STEP5. あなたの授業分析力・授業改善力 をチェック!
 ⑦ 最後に、授業検討を行ったあなた自身について書きましょう。

授業者	A	B	C
授業者	授業者の外国語活動指導観	授業者の外国語活動指導観に気づいて、授業への改善を提案	授業者の外国語活動指導観に気づいて、授業への改善を提案する結果がでない
あなた自身	あなた自身、シートを1枚使って、授業の改善案を提案しましたか? (理由)	あなた自身、シートを1枚使って、授業の改善案を提案しましたか? (理由)	あなた自身、シートを1枚使って、授業の改善案を提案しましたか? (理由)

授業研究支援シート: 小学校外国語活動編

STEP1. 授業者の外国語活動指導観 をチェック!
 ① 授業者の外国語活動指導観を確認しましょう。

STEP3. 授業者の外国語活動指導観と 授業計画力・授業展開力の関係 をチェック!
 ④ 右の項目①～⑧のうちの、外国語活動指導観の項目①～⑧と関係がある項目を線で結びましょう。

①	A	B	C
授業者	授業者の外国語活動指導観	授業者の外国語活動指導観に気づいて、授業への改善を提案	授業者の外国語活動指導観に気づいて、授業への改善を提案する結果がでない
1 なぜ外国語活動は必要か?	子どもたちが習得している日本語とは違う言語を使うことで、改めてコミュニケーションの大切さに気付いてもらうため。	コミュニケーションへの積極性や文化への関心	コミュニケーションへの積極性や文化への関心
2 外国語活動の目標は?	外国語活動を通じて何を学ぶか? 何をどのようにつなげるか?	学習指導要領もふまえて英語(ノート)等をふまえて (理由)	学習指導要領もふまえて英語(ノート)等をふまえて (理由)
3 カリキュラム構成論	何をどのようにつなげるか?	学習指導要領もふまえて英語(ノート)等をふまえて (理由)	学習指導要領もふまえて英語(ノート)等をふまえて (理由)
4 単元構成論	本単元の目標は? 単元の構成位置は?	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)
5 授業の目標	本時の目標は? 授業の目標は? 授業の目標は?	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)
6 授業の展開	授業の展開は? 授業の展開は? 授業の展開は?	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)
7 授業の方法	授業の方法は? 授業の方法は? 授業の方法は?	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)	(本単元の目標) ア. 進んで形や色の英語を使い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。(コ) I like "Two blue circle." 等の表現を活用して伝えたり、相手に伝えることを理解したりする。(理由) ウ. 言葉の使い分けはあっても、使う人の気持ちに同じであることを理解する。(英)

STEP4. 授業者の外国語活動指導観と 授業計画力・授業展開力の関係 をチェック!
 ⑥ 授業の観測や改善案について、授業者の外国語活動指導観と関連づけて討論しておきましょう。新たに気が付いたことがあれば書き加えましょう。

STEP5. あなたの授業分析力・授業改善力 をチェック!
 ⑦ 最後に、授業検討を行ったあなた自身について書きましょう。

授業者	A	B	C
授業者	授業者の外国語活動指導観	授業者の外国語活動指導観に気づいて、授業への改善を提案	授業者の外国語活動指導観に気づいて、授業への改善を提案する結果がでない
あなた自身	あなた自身、シートを1枚使って、授業の改善案を提案しましたか? (理由)	あなた自身、シートを1枚使って、授業の改善案を提案しましたか? (理由)	あなた自身、シートを1枚使って、授業の改善案を提案しましたか? (理由)